

兵庫縣におけるノジギク *Chrysanthemum ornatum* var. *spontaneum* の分布について

藤原 悠 紀 雄

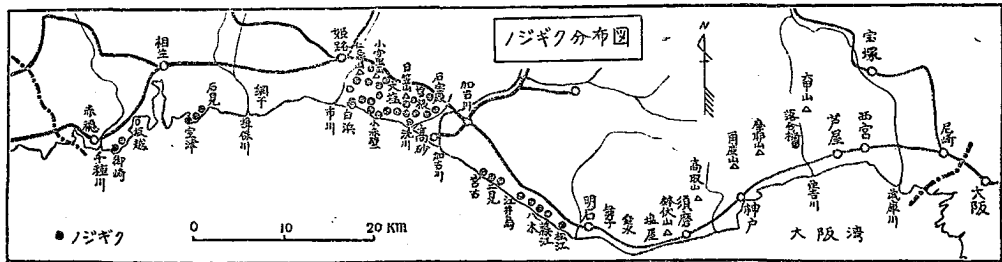
Yukio Huziwar: On the distribution of *Chrysanthemum ornatum* var. *spontaneum* in Hyogo-prefecture.

ノジギク *Chrysanthemum ornatum* HEMSLEY var. *spontaneum* (MAKINO) KITAMURAは $2n=54$ の染色体をもつ天然における6倍種である。この植物は1887年、牧野富太郎博士が高知県仁淀川の流域で発見したもので、その地理的分布は既に下斗米(1935)により明かにされ、瀬戸内海沿岸各地、九州の東海岸並びに高知県の西部海岸に分布することが報告されている。筆者藤原(1942)は本植物の薩摩半島における分布を詳細に調査し、この植物の分布の西限が鹿児島県塩屋であることを明かにした。兵庫縣は本植物が最も豊富に産し、かつその自生東限地を含むと考えられるので、その分布状態を調査した。なお下斗米、益森(1956)最近の調査によればノジギクは種子島、屋久島および奄美群島にも産し、種子島のものは $2n=54$ の6倍体であるが屋久島のものは $2n=72$ の8倍体であり、奄美大島および徳之島のものは $2n=90$ の10倍体であるという。

調査結果

赤穂市の海岸にはノジギクは極めて少く、御崎より東の海岸に2, 3株認めたにすぎない。坂越港の沿岸

にはこの菊はなく、御崎、坂越間の海岸には普通は山地に生育するリウノウギク *Ch. Makinoi* MATSUMURA et NAKAI が少数ながら見られた。これより東に向い笠津の海岸においてはノジギクの生育はやや多くなり、キバナノジギク *Ch. ornatum* HEMSLEY var. *spontaneum* f. *flavescens* MAKINO およびリウノウギクが混生している。岩見附近においてはノジギクは見られない。姫路市の東南に当る斐鹿および白浜に至りノジギクの生育は急激に増加している。この地区においては海岸近くに極めて多く、北に向い仁寿山および小富士山の山麓に沿い殆んど連続して生育し、海岸線より10kmの地点である山陽本線の近くまで認められた。小赤壁の海岸にもかなり多く大塩の塩田附近には非常に多い、なおこの附近の半鹹水の混地にはウラギク *Aster Topolium* L. が多数生育していてノジギクに先立つて開花する。大塩、曾根の中間にあたる日笠山の山麓にはノジギクは多く、天川の川沿いにも生育している。更にこれより東北にあたる石の宝殿附近にも見られ、連続して洗川の西岸まで見られ



第1図 兵庫縣におけるノジギクの分布

た。キバナノジギクは大塩、曾根および洗川西岸において普通種である白花のノジギクに混生して点在するのを認めた。洗川東岸の地域には全く見られず、加古川の河口附近にもこの菊はない。宮古、二見の海岸に至り再び現われ江井島、八木、藤江および松江の海岸に連続してこの菊が生育している。しかし宮古より松江に至る間即ち加古川以東明石以西の地区のものは殆んどがイエギク *Ch. morifolium* RAMATUELLE またはシマカンギク *Ch. indicum* L. の形質の混じたも

ので、純粋に野生のノジギクと考えられるものはない。即ちこの地区においてはノジギクが栽培のイエギクの野生化したものやシマカンギクと交雑して極めて複雑なゲノムをもつたものとなり海岸近くに生育しているものと考えられる。明石以東については舞子、垂水、塩屋および須磨の海岸にはノジギクは全くなく、神戸の背山即ち鉢伏山、高取山、再度山、摩耶山などの山麓においてもリウノウギクおよびシマカンギクは見られるが、ノジギクはない。六甲山においては数年

前まで六甲ケーブル土橋駅附近に数株見られたが現在は見られない。これより少し東にあたる住吉川の落合橋西北約 300m の地点にかなり大きなノジギクの群落がある。住吉川より東の地区即ち芦屋および西宮においては山地に少数のリウノウギクを産するのみでノジギクは全くない。淡路にはノジギクは西海岸、東海岸共に産するが、その量は極めて少ない。和歌山県加太の海岸からノジギクを産することが報告されたことがあるが、筆者の調べたところでは加太町にはこの菊はなかつた。大阪府およびこれより東の地方にはノジギクは産しないからノジギク自生の東限は住吉川であり、この菊が最もよく生育しているのは大塩を中心とした加古川以西、市川以東、山陽本線以南の地区である。

御指導を賜つた下斗米、北村両教授に御礼申上げる。また調査に協力下さつた前田米太郎、杉田隆三、石原貢の諸氏に感謝する。

Summary

The geographical distribution of *Chrysanthemum ornatum* HEMSLEY var. *spontaneum* (MAKINO) KITAMURA in Hyogo-prefecture is reported.

The plant grows in the coastal area from Mega to Sone most abundantly.

The River Sumiyoshi seems to be the north-eastern limit of distribution.

文 献

- 藤原悠紀雄 1942 薩摩半島における野生菊の分布について 植物及動物10:381
- 1953 兵庫県及び鳥取県におけるワカサハマギクの分布について 兵庫生

- 物 2:139
- 北村 四郎 1934 家菊の原種に関する植物分類学者の見解 植物分類地理3:201
- 1935 本邦産菊の分類 植物分類地理4:35
- 1940a Compositae Japonicae II. Mem. Coll. Sci. Kyoto Imp. Univ. Ser. B. 15:285
- 1940b 菊 弘文堂
- 1948 菊 平凡社
- 1956 ノジギクとサツマノギク 植物分類地理16:159
- 牧野富太郎 1891a 菊の原種について 日本園芸雑誌 23:1
- 1891b のちぎく 日本植物図篇1第8集
- 1933a 家植菊の原理に立つべきノジギク 実際図芸15:3
- 1933b 天然に出現しいるノジギクの頭状花の種々相 植物研究雑誌 8
- 下斗米直昌 1935a 菊の生態と細胞遺伝 養賢堂
- 1935b 本邦産菊属野生種の分布に就て植物及動物3:899
- 1947 植物の分布と倍数性 農学綜報1:182
- 益森静生 1956 ノジギクの種内倍数性と地理的分布 第21回日本植物学会大会講演要旨:22
- 山鳥吉五郎 1935 野路菊に就いて 博物学雑誌 33:14